

報恩講の ことごとえ

報恩講とは

報恩講とは、一言でいえば、親鸞さまのご法事のことです。真宗の最重要行事であり、門徒にとりては特別な意味を持つものです。初めておむかえになる方も、七〇〇年以上にわたり先達が大切に伝えてこられた意味を大事に学び、後にも確かに伝えていきたいものです。

報恩講は三つある

まず、ご門徒各家でつとめる「通り報恩講」。西教寺では、例年十月一日よりはじまります。一軒二〇分の目安がまわり、ほとんどご門徒がつとめられます。

次に、全国の真宗各寺院では「お取り越し報恩講」をつとめます。

す。ご命日を年内に取り越して行つたのです。

そして、ご本山（西本願寺）では、一月十六の正当日の二週間前より「正當（御正忌）報恩講」がつとまります。本来は本山に参詣すべきものです。しかし、本山へ参詣できない人のために、ご法義の厚い安雲地方では、各寺院でもご正當の法座を行っております。

報恩講の心がまえ

それでは、どのような心構えで報恩講をお迎えすればよいのでしょうか。

親鸞さまによると、仏さまの教えを聞き、心豊かに日々を送れるようになった人は、お育てに感謝して、少しでも仏法が弘まるよう、また世の中が安穏なるよう、できることを「報謝しなさい」と言われています。どうぞご家族、ご友人など、一人でも多くの方を誘ってご縁におあい下さい。

一方、真宗のご縁はあるだけ

ども、まだまだお寺に足が向かない人、心に安らぎがえられない人については、蓮如さまによると、

未安心の行者にいたりては（略）この砌において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば（蓮如上人『御俗姓』一一二二頁）

とあるように、納得するまで仏法を聞き、まことの智慧をたまたわつて新たな人生への機縁としましよつことごとです。

「理解とご協力を

「順番は分かるが、大体の時間が分からないものか」という声にお応えして、

「朝八時から始まって一軒三〇分を目安に廻ります」とお知らせしました。すると今度は「もう来たのか」とか「まだ来ない」ということになって、逆に混乱の原因にもなつてしまいました。急な変更が重なつたり、ご門徒が亡くなられたりすると、すぐに二〜三時間は前後してしまいます。どうか前後二〜三時間までは「容赦」お時間を賜りますようお願いいたします。

「都合の悪い方は、相談の上、別の日時にお参りさせていただきませう。遠慮なくご連絡下さい。加えて、時間に余裕がなく、予定時間がずれては困ると言う方も、遠慮なくお寺まで「一報下さい」。



報恩講の チェック ポイント

報恩講を、お仏壇のおおそうじ大掃除をするご縁にしましよつ。

おみがき（お掃除）

めつきしてないしんちゆう製の

りんちゆう 輪燈・おりん・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゆう磨きなどで磨きます。家族みなでおみがきしましよつ。



おか

ざり

へお花

まごころをお供えするのですから、造花は法度です。



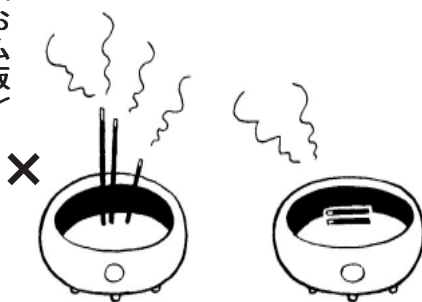
へローソク

普賢横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお光りをともしましよう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱ロウ（赤いローソク）で、マッチと灰皿をお忘れなく。



〈お香〉

できるだけ良い香りのものにしてしま
しょう。香炉は灰をならしておき
ましょう。マッチの燃えカスは香炉
ではなく灰皿に入れるものです。



線香は立てずにねかせます

〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。
両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）
にもお忘れなく。

〈お供え物〉

日常つねにお供えするものはお仏
飯だけです（水・お茶・コー
ヒー・お酒・たばこ等はそなえま
せん）。また、頂き物をまず仏さ



まにお供えするうるわしい習慣を
大切にしましょう。



×

報恩講などの法要仏事の際は、
お餅やお菓子等を適宜お供えしま
す。お供えする順番は ①「餅」②
「菓子」③「果物」の順です。ま
た、お供えは、供寄（華足ともい
う）や高杯に盛りますが、この辺
で多い三方向が金濃（金色）、残
りの三方向が黒の供寄は、金が正
面に来よう（黒が見えないよう
に）するものです。



このような感じで、黒いところが
見えているのは×

御文章

「出し忘れ」をしたり、「上下
逆」になっているのが御文章。お持
ちでない方は、お寺にご相談下さ

い。

ちなみにお花、仏具、法事の
「お仏前」なども含めて、お供え
物は皆同様の方向を向けるのが
作法です。お供えは私の手柄では
なく、「おかげで」という心を表
していることです。



（上側）
ちら（上側）
が仏（上側）

お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹茶を忘れ
ずに。



お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。
また、これらは直接地べたに置き
ません。

おつとめ

お経はいつしよについてあげま
す。老眼鏡を忘れずに。一昨年か
ら、お正信傷も少しはゆつくりにな
ったと思いますので、できるだけ
多く方を誘ってご縁にお会い下さ
い。

真宗には必要ないもの

・お位牌（過去帳に書き換えま
しょう）



・他宗の本尊・神棚・お札・お守
り・破魔矢など



×

「力の宗教」「道の宗教」

宗教は「力の宗教」と「道の宗
教」の二種に分けられます。「力
の宗教」とは何らかの力（パワー）
をあてにする宗教のこと。力（パ
ワー）だから足し算が可能となり
ます。〇〇の神様、だけじゃあ不安
だから△△の神様のところにお願
いについておこう、というふう
に、あれもこれもが可能となり
ます。一方、仏教は「道の宗
教」。「道」を教えたものだから
「私はどう生きるのか」という生
き方を問題にします。「道」「生
き方」となると、あれもこれもと
いうわけにはいきません。「何が
まこと」か「何がウソか」が問題
になります。親鸞さまは真と仮と
偽の三つに分けてお示しです。

「おぼれるものはワラをもつか
む」おぼれてしまったら誰も皆正
常な判断はできません。しかし
「つかんだ時がおぼれる時」。ワ
ラなのか大木なのか。またおぼれ
ないうちに、見極めて学んでおきま
しょう。